

ガバナー公式訪問スピーチ「ロータリーの誇りを楽しもう！」

国際ロータリー第 2530 地区

ガバナー

右近 八郎

(福島 RC)



2023-24 年度国際ロータリー (RI) 第 2530 地区のガバナーを拝命しました福島 RC の右近八郎です。本日はガバナー公式訪問に際して、ガバナースピーチの時間をいただきありがとうございます。

2023 年 1 月に 3 年ぶりとなる通常開催による国際協議会が米国フロリダ州のオーランドにて開催されました。その時発表された 2023-24 年度 RI テーマは、すでにご案内のように、「CREATE HOPE in the WORLD」「世界に希望を生み出そう」です。RI がこれまでも世界平和を希求し、世界に希望を与えてきたことを再認識し、これからも更なる世界平和を促進するために設定されたテーマです。

図-1 はロータリー哲学の変遷をマップ表示したものです。ロータリークラブは 1905 年に創立され、これまでに五つの危機を経験しているとされており、現在は先進諸国での会員減少という第五の危機の只中にあるとされています。

創立当初には物質的互惠と精神的互惠の対立である第一の危機を経験し、シェルドンのサービス理論に基づく職業奉仕 (理論派) と超我的奉仕 (実践派) の対立である第二の危機が、決

議 23-34 により発展的に解決されました。その後、大恐慌 (第三の危機) と第二次世界大戦 (第四の危機) を経て、1980 年代になり第五の危機を迎えました。21 世紀を迎え、CLP、DLP の導入とともに、RI の方針は機能的かつ集団的な方向に向かっています。さらに図-1 には、これまでの幾多の危機を前向きに乗り越えてきた要因である、常に変わることのなかった「友情、親睦、寛容」というロータリーの価値観を合わせて示しています。

さて組織運営では組織の有する機能性 (図-1 左側) を、その構成員の精神性 (図-1 右側) の裏付けにより確保するのが理想ですが、21 世紀のロータリーは機能性の追求を第一とし、地域の歴史に基づく構成員の精神性には関心が無いようです。このような RI の現況を受けて、機能性と精神性の融合を意図して、次の二点を 2023-24 年度の RI 第 2530 地区の地区基本方針として掲げました。

1. 効率的な地区運営とリスク管理の強化
2. 楽しいロータリー活動と研鑽

次に日本人とロータリーという観点から話題提供させていただきます。まずフランス人の文化人類学者であり哲学者でもあるクロード・レヴィ＝ストロースは、日本に関して次のようなことを述べています。

「日本は精神性を東洋思想に学び、機能性を西洋思想に学んだ。そしてその独自性を失うことなく、外来のものを昇華させ自らに取り入れてきた。現在日本は、東洋社会には健全な機能性を、西洋社会には健全な精神性を教えている」。また日本人と西欧人の精神構造に関して、図-2 に示すような機能と精神における好対照性に

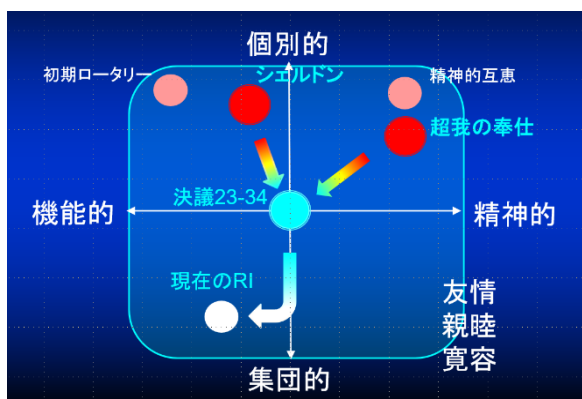


図-1 ロータリー哲学の変遷

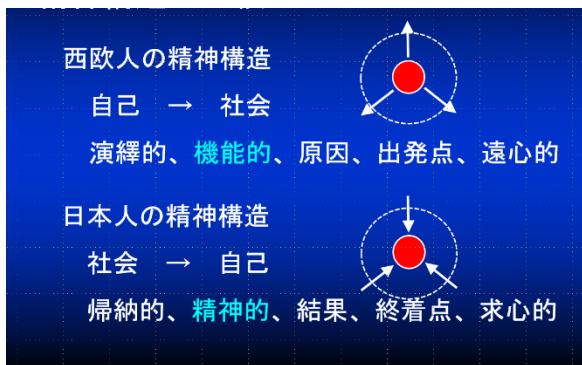


図-2 西歐人と日本人の精神構造

関して言及しています。日本人と西歐人の向社会的行動に対する姿勢の違いが理解できます。これらの特性は縄文時代に遡る悠久の歴史の中に生きてきた日本人が獲得してきた世界に類の無い文化特性とその精神構造であり、ロータリーの未来とも無縁ではありません。これからのロータリーは、

1. グローバリゼーションの限界と地域化 (Regionalization) の流れ、
2. 地域の精神性と機能性の融合である地域化の共存による持続性の確保、
3. その源泉として楽しいロータリー活動と魅力あるクラブ作り、

を必要としているのです。

最後に地区方針に示した「楽しい」ロータリー活動について考えてみましょう。

「楽しい」とは、顕在的・潜在的な欲求の充足過程と捉えることができます。さらに欲求とは、米国の心理学者アブラハム・マズローの欲求段階説によると、欲求は次の六つの段階で構成されているとされます。

- | | |
|-----------|----------|
| 1. 生理的欲求 | 2. 安全の欲求 |
| 3. 社会的欲求 | 4. 承認欲求 |
| 5. 自己実現欲求 | 6. 超我の欲求 |

1. ～4. の欲求を欠乏欲求、5. と6. の欲求を成長欲求あるいは生存欲求と呼びます。

ロータリー活動が一般的に提供できる欲求充足要因は基本的に欠乏欲求の3. と4. の欲求

に対してですが、実はロータリーは5. や6. の欲求の欲求充足要因になり得る優れた環境を提供できるのです。それはあなたの成長欲求あるいは生存欲求を強力に支援する優れた環境と仲間の存在なのです。外的な「楽しみ」から内的な「喜び」へ、新しい出会いによる主観的価値観の昇華、そしてロータリアン自身が主役であり魅力あるクラブの源泉なのです。

図-3に示したのは、いわゆる DEI に続く組織理念に関する DEIBJ の説明です。B は Belonging (帰属感)、最後の J は Justice (公正性) です。皆さんの正義、つまり美意識、それは誇りです。



図-3 DEIBJ の説明

このような検討を経て、2023-24 年度地区スローガンを、

“ENJOY the ROTARY PRIDE !”

「ロータリーの誇りを楽しもう！」

としました。共同体の構成員であるロータリアンの皆さんが機能体の目的を目指すには、精神性に裏付けられた理念が必要なのです。このスローガンはこのような目的のために掲げさせていただきました。意識的でも無意識でも構いません、ロータリーの誇りを楽しみましょう。

最後になりますが、2023-24 年度のロータリー一年度も、会員の皆様の充実した実り多い人生の糧になることを祈念しまして、ガバナー公式訪問でのガバナースピーチとさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

以上